

平成 2 5 年 度

川崎市下水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成25年度 下水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

下水道は、市民の快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全及び雨水排除等のために欠くことのできない都市の基幹施設であり、平成25年度も引き続き、本市の重要施策の一つとして、事業に取り組んでまいりました。

平成25年度は、都市基盤施設としての下水道機能の維持向上を図るため、施設の効率的・効果的な維持管理と更新、また、東日本大震災を踏まえた地震対策など優先順位や重点化を考慮した建設整備を行ってまいりました。

一方、財政面では、下水道経営の健全化を図るため、事業運営の効率化に努めてきたことなどにより、前年度に引き続き当年度純利益を計上することができましたが、過去の建設投資の影響により、未だ企業債未償還残高は高い水準にあり、依然として厳しい財政状況にあります。

(業務の状況)

平成25年度末における処理面積は1万693ha、処理人口は144万4,545人で、人口普及率は99.4%に達しています。

また、有収水量は1億4,778万6,688 m^3 で、下水道使用料は税抜きで226億6,015万410円です。

(建設及び改良工事)

平成25年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、178億9,566万2,580円となっております。

また、65億4,000万円を平成26年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、管きょについては、水洗化の普及、浸水地域の解消を図るため、下水幹枝線工事を施行しました。また、下水道機能の確保及び道路陥没等の二次的被害の発生を防ぐため、老朽化の著しい管きょの再整備工事を施行しました。

貯留管関連については、前年度に引き続き、大師河原貯留管の建設工事を施行しました。

ポンプ場については、大島、渡田、六郷、観音川、小向、戸手、渋川、丸子、蟹ヶ谷、久末ポンプ場等で設備の更新工事を施行しました。

水処理センター等については、入江崎、加瀬及び等々力の3水処理センター並びに入江崎総合スラッジセンターの更新工事を施行しました。

また、入江崎水処理センターにおいては、前年度に引き続き、西系の再構築（高度処理対応）工事を、等々力水処理センター等においては施設の耐震化工事を施行しました。

2 平成25年度 下水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	37,894,718,000	37,955,703,528	60,985,528	100.2%
資本的収入	54,059,052,000	47,702,087,340	△ 6,356,964,660	88.2%
合計	91,953,770,000	85,657,790,868	△ 6,295,979,132	93.2%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	36,328,250,000	34,979,176,462	△ 1,349,073,538	96.3%
資本的支出	71,055,361,000	64,061,591,586	△ 6,993,769,414	90.2%
合計	107,383,611,000	99,040,768,048	△ 8,342,842,952	92.2%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	37,955,703,528	34,979,176,462	2,976,527,066

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益 2,163,658,706

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	47,702,087,340	64,061,591,586	△ 16,359,504,246

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 78,880,000円は除く）が資本的支出額に不足する額 16,438,384,246円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 812,428,360円、繰越工事資金 135,126,000円、減債積立金 439,377,348円及び当年度分損益勘定留保資金 15,051,452,538円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成25年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益（A）	2,163,658,706	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 812,428,360 ・繰越工事資金 135,126,000 ・減債積立金 439,377,348 ・当年度分損益勘定留保資金 15,051,452,538 〔減価償却費等 14,445,097,028 固定資産除却損 606,355,510〕
資本的収支差額（B）	△ 16,359,504,246	
補てん財源等（C）	16,438,384,246	
単年度資金残額 （A）+（B）+（C）	2,242,538,706	

※単年度資金残額には翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 78,880,000円を含む。

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

平成 24 年度 末 資 金 残 額 ※	平成 25 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 25 年 度 末 資 金 残 額
1,042,714,285	2,242,538,706	3,285,252,991

※前年度資金残額から、補てん財源（繰越工事資金及び減債積立金）を除いた金額。

(4) 経営成績（税抜額）

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	25,480,663,466	営 業 収 益	34,833,753,353
営 業 外 費 用	9,118,454,057	営 業 外 収 益	1,174,141,701
特 別 損 失	36,988,302	特 別 利 益	791,869,477
総 費 用	34,636,105,825	総 収 益	36,799,764,531
当 年 度 純 利 益	2,163,658,706	当 年 度 純 損 失	-
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	184,507,583	前 年 度 繰 越 欠 損 金	-
当 年 度 末 処 分 利 益 剰 余 金	2,348,166,289	当 年 度 末 処 理 欠 損 金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
下 水 道 事 業 会 計	- (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

項目 \ 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	増 △ 減 (%)
総人口 (人)	1,453,427	1,440,474	(0.9 %) 12,953
処理人口 (人)	1,444,545	1,431,113	(0.9 %) 13,432
人口普及率 (%)	99.4	99.4	(0.0 %) 0.00
処理面積 (ha)	10,693	10,683	(0.1 %) 10
排水区域面積 (ha)	10,693	10,683	(0.1 %) 10
水洗化対象件数 (件)	679,025	669,787	(1.4 %) 9,238
水洗化件数 (件)	674,721	665,292	(1.4 %) 9,429
水洗化助成件数 (件)	56	47	(19.1 %) 9
年間処理水量 (m ³)	200,903,467	197,576,485	(1.7 %) 3,326,982
1日平均処理水量 (m ³ /日)	550,421	541,305	(1.7 %) 9,116
年間有収水量 (m ³)	147,786,688	147,599,311	(0.1 %) 187,377
管渠布設延長 (m)	3,089,642	3,073,474	(0.5 %) 16,168
下水道使用料 (円) (税抜額)	22,660,150,410	22,400,100,467	(1.2 %) 260,049,943